

子どもの親イメージを構成する家族内の直接的・間接的コミュニケーションに関する研究

柴田学園大学 こども発達学科

萩臺 美紀

TEL 0172-33-2289

FAX 0172-33-2486

顔写真等
(希望者のみ)

e-mail m-hagidai@shibata.ac.jp

Web 等(該当するものがある方のみ)

キーワード

家族システム コミュニケーション 父親イメージ 母親イメージ
直接的・間接的コミュニケーション

【これまでの研究】

家族関係がコミュニケーションで成り立つ1つのシステムだと捉える理論にもとづいて、家族のコミュニケーションの研究を行っています。特に、母と子どもがお互いについて話すことを直接的コミュニケーション、母と子どもが父について話すことを間接的コミュニケーションとし、これらが家族にどのような影響を及ぼすのかについて検討を行ってきました。

特に、日本の家族内においては父子関係を母親が取り持っていることが多く、父親が不在がちである場合や、子どもとうまく関わることができない場合、母親が父子関係を取り持つ重要性が増します。そこで、母親が子どもに対して「どのように父親について話すか」という言語・非言語に着目した研究を主に行っています。



図1. 間接的コミュニケーション

【主な結果】

- ・親子での直接的コミュニケーションだけでなく、片方の親についての肯定的な情報を話すことは子どもの片方の親に対する好意的イメージを促進する。
- ・母親から父親について笑顔や明るい口調で和やかに話すこと、また母親が落ち着いて真面目な表情で真剣に話すことで、子どもの肯定的な父親イメージを高め、家族機能を促進する。

【今後の展開】

以上の知見を踏まえて、ひきこもりや不登校など子どもの問題を解決するために重要な家族の関係性やコミュニケーションを明らかにしたいと考えています。